

各教科等の指導における個別の指導計画作成の実態とその関連要因

安井 淳

I 問題

平成 21 年に「特別支援学校学習指導要領」が改訂され、自立活動だけでなく他の各教科等の指導に当たっても、個別の指導計画作成することが義務付けられた。特別支援学校の各教科等の指導について、西垣(2008)は、「教科等の指導を行う場合、2方向から目標を分析・検証し、設定する必要がある」とし、一つを学習指導要領に示される目標・内容、もう一つを児童・生徒の実態及び個別に必要とされる障害による困難に対応する課題として、双方を兼ね合わせて授業の計画を立てる必要がある、としている。これを「教科指導における目標設定の構造(L字型構造)」(西垣, 2008)とし、個々の指導目標は複合的に判断し、設定されるべきだとしている。

しかし、特に知的障害教育では、太田・木村(2010)が指摘するように、個別の指導計画と授業の実践が結び付けにくいという課題があった。今回の改訂を受け、知的障害特別支援学校では、どのように個別の指導計画作成しているのか明らかにするとともに、教師が各教科等の指導についてどのように意識しているか、その意識が個別の指導計画作成にどのように影響を及ぼしているのかを中心に明らかにしたいと考えた。

II 目的

本研究では、知的障害特別支援学校で行う個々に即した各教科等の指導における個別の指導計画作成について検討を行うため、以下の点を明らかにする。

- 1 各教科等における個別の指導計画作成の実態
- 2 個別の指導計画を作成している教師の各教科等の指導に対する意識
- 3 教師の各教科等の指導に対する意識が個別の指導計画作成の実態に及ぼす影響
- 4 教師の属性や個別の指導計画に関わる学校の取り組みが教師の各教科等の指導に対する意

識に及ぼす影響

III 方法

1 対象

全国の知的障害特別支援学校(本校のみ)から無作為抽出し、調査協力の承諾を得た 106 校 318 名の教師を対象とした。

2 調査方法

郵送による質問紙調査法を 8 月上旬から 8 月下旬に実施した。

3 調査項目

予備調査の結果を踏まえ、以下の調査項目を設定した。

1) 作成している教師の属性

教職勤務年数、学校別勤務経験の有無及び勤務年数、個別の指導計画作成年数、主任経験の有無等 10 項目

2) 作成している学校の取り組み

個別の指導計画に関わる研修の有無、日課表に位置づけられている教科とそれに対する個別の指導計画の有無等 6 項目

3) 個別の指導計画作成の実態を明らかにする項目、「行動の観察を参考に各教科・自立活動・各領域の年間指導目標を設定」、「前年度の個別の指導計画を参考に各教科・自立活動・各領域の年間指導目標を設定」等 48 項目

4) 教師の各教科等の指導に対する意識を明らかにする項目、「自分が専門とする教科の専門性を高めようとしている」、「各教科等の指導目標を導き出すには、授業の様子から目標を設定しようとしている」等 20 項目

4 分析の視点

1) 個別の指導計画作成の実態、教師の各教科等の指導に対する意識についての構造を明らかにするために、因子分析を行った。

2) 教師の各教科等の指導に対する意識が、個別の指導計画作成の実態に及ぼす影響を明らかにす

表1 意識の因子Ⅰの測定項目と因子負荷量
($\alpha = .873$)

負荷量	内容
.864	学習指導要領に基づいて、各教科領域等の個々の指導内容を設定しようと心がけている
.864	各教科領域等の指導において、学習指導要領で定められている各教科領域等の内容に沿った指導を心がけている
.747	指導内容が常に学習指導要領の各教科の内容から外れていないか配慮している

表2 意識の因子Ⅱの測定項目と因子負荷量
($\alpha = .709$)

負荷量	内容
.818	各教科の指導目標を導き出すには、授業の様子から目標設定をしようと心がけている
.622	各教科の指導では、既習の内容についてさらに理解を深めることに心がけている
.522	各領域の指導においても、個々の年間の指導内容に沿った、教材や教具を準備しようと心がけている
.487	各教科のねらいや内容を踏まえて、個別の指導計画を作成しようとしている
.430	各教科の指導を日々の学習に、確実に取り入れようとしている

表3 教師の各教科等の指導に対する意識、個別の指導計画作成の実態についての重回帰分析結果

独立変数	従属変数					
	検査結果に基づく目標・内容の設定	前年度の個別の指導計画や教育的ニーズに基づく目標・内容の設定	心理、認知、行動の特性の把握	学習指導要領に基づく目標・内容の設定	前年度の自立活動の取り組みに基づく目標・内容の設定	日々の学習の観察に基づく目標・内容の設定
学習指導要領に基づいた指導観	.286***	.064	.196**	.557***	.225**	-.300
授業の様子や既習の内容などの情報を統括的に生かす指導観	.102	.454***	.221**	.055	.174*	.544***
調整済み R^2	.105	.224	.110	.330	.100	.279
F値	14.207***	33.586***	15.036***	56.590***	13.608***	44.830***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

るために、教師の各教科等の指導に対する意識を独立変数、個別の指導計画作成の実態を従属変数として重回帰分析を行った。

3) 個別の指導計画を作成している教師の属性や個別の指導計画作成に対する学校の取り組みが教師の各教科等の指導に対する意識に及ぼす影響を

明らかにするために、教師の属性や学校の取り組みを独立変数、教師の各教科等の指導に対する意識を従属変数とした分散分析を行った。

IV 結果

因子分析の結果、個別の指導計画作成の実態に

表4主任経験の有無と教師の各教科等の指導に対する意識

	N=227	Mean	SD	F値
学習指導要領に基づいた指導観				
主任経験あり	81	11.54	2.39	7.38**
主任経験なし	146	10.62	2.49	
授業の様子や既習の内容などの情報を統括的に生かす指導観				
主任経験あり	81	21.26	2.74	6.59*
主任経験なし	146	20.36	2.39	

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

ついて6因子「検査結果に基づく目標・内容の設定」「前年度の個別の指導計画や教育的ニーズに基づく目標・内容の設定」「心理、認知、行動の特性の把握」「学習指導要領に基づく目標・内容の設定」「前年度の自立活動の取り組みに基づく目標・内容の設定」「日々の学習の観察に基づく目標・内容の設定」、教師の各教科等の指導に対する意識について2因子「学習指導要領に基づいた指導観」「授業の様子や既習の内容などの情報を統括的に生かす指導観」(表1、表2)が抽出された。

また、教師の意識を独立変数、指導計画の実態を従属変数とした重回帰分析の結果、教師の各教科等の指導に対する意識の因子「学習指導要領に基づいた指導観」が個別の指導計画作成の実態の「検査結果に基づく目標・内容の設定」($\beta = .286, p < .001$)「心理、認知、行動の特性の把握」($\beta = .196, p < .01$)「指導要領に基づく目標・内容の設定」($\beta = .557, p < .001$)「前年度の自立活動の取り組みに基づく目標・内容の設定」($\beta = .225, p < .01$)に影響を及ぼし、指導要領からの視点を生かした個別の指導計画作成がなされていることが明らかになった。また、教師の各教科等の指導に対する意識の因子「授業の様子や既習の内容などの情報を統括的に活用しようとする指導観」が、個別の指導計画作成の実態の「前年度の個別の指導計画や教育的なニーズに基づく目標・内容の設定」($\beta = .454, p < .001$)「心理、認知、行動の特性の把握」($\beta = .221, p < .01$)「前年度の自立活動の取り組みに基づく目標・内容の設定」($\beta = .174, p < .05$)「日々の学習の観察に基づく目標・内容の設定」($\beta = .544, p < .001$)に影響を及ぼし、児童生徒個々の状態に沿った各教科等の

指導を行おうとする意識が個別の指導計画作成に生かされていることが明らかになった(表3)。

独立変数を教師の属性と学校の取り組み、従属変数を指導の意識とした分散分析の結果からは、教師の属性の「主任経験」がある群が表4より、「指導要領に基づく指導観」に影響を示し、指導要領に基づいた各教科の指導をより意識していることが明らかになった($F_{(1,225)} = 7.379, p < .01$)。また、「主任経験」のある群が「学習状況や既習内容を統括的に活用する指導観」に影響を示し、学習状況や既習内容を統括的に活用しようとしていることが明らかになった($F_{(1,225)} = 6.587, p < .05$)。その他にも、「学習状況や既習内容を統括的に活用する指導観」に対し、「国語・算数の個別の指導計画作成」($F_{(1,225)} = 10.245, p < .01$)「音楽・体育・図工の指導計画作成」($F_{(1,225)} = 5.172, p < .05$)がある群が学習情報や既習内容といった情報を活用しようとしている結果が見られた。

V 考察

今回の結果から、知的障害特別支援学校の教師の各教科等の指導に対する意識には、西垣(2008)の示す「L字型構造」の2つの視点が含まれており、個別の指導計画作成の実態にも影響を及ぼしていることが明らかになった。これにより、「L字型構造」に沿った個別の指導計画が作成されていることが推察される。また、その各教科等の指導の意識に対して、主任経験のある教師はない教師に対し、指導要領に基づく見方と個々の実態に基づく見方両面からの視点をもっていることが明らかになった。このことより、個別の指導計画の作成を通して教師集団の自己教育力を高めるためにも、主任経験のある教師を含んだ複数教師による個別の指導計画の作成が必要だと考える。

文献

- 西垣昌欣(2008) 教科の指導・評価の計画. 筑波大学 桐ヶ丘特別支援学校編著, 肢体不自由教育の理念と実践. ジアース教育新社, 192-198.
- 太田俊己・木村宣孝編(2010) 特別支援学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 特別支援教育 [知的障害・発達障害]. 東洋館出版社.